

スーパーマーケット景気動向調査

2019年7月調査結果（6月実績）
（2019年7月23日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

7月調査（6月実績）結果概況

景気判断DIは現状・見通しともに小幅に悪化

6月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI 現状判断は前月から-1.0の44.0、見通し判断は前月から-1.5の41.7となり、共に3ヵ月連続で改善後に小幅な悪化をみせた。

経営動向調査では、売上高DI、収益DI共に小幅に上昇し、マイナス幅を縮小した。青果相場が回復したことで生鮮仕入原価DIが3.4、値上げが相次いだ食品仕入原価DIは4.9と共にプラス圏で推移していることで販売価格DIが堅調であったことや、来客数DIが日曜日の1日多い曜日巡りの恩恵を受け小幅に上昇したことが支えとなった。

カテゴリ動向調査では、青果相場の回復により青果DIが-1.9までマイナス幅を縮小したほか、アニサキスの影響が軽減した水産DIが0.9と小幅ながらプラスになった。一方で、梅雨入りの遅れや最終週の気温低下で夏物商材が伸び悩んだ影響を受けたカテゴリもみられた。（カテゴリ動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査はいずれのDIも悪化をみせており、12ヵ月移動平均線に頭を押さえられる格好となって改善には一服感がみられている。（長期傾向についてはp11参照）

水産カテゴリの回復や青果相場が安定傾向にあるなど売上回復の兆しがみられる一方で、梅雨明けの遅れによる夏物不振への警戒感も強く、見通しDIは慎重な見方が多い。なにより10月には消費税率引き上げが控えており、消費低迷に関する警戒感も強い。さらに他業態が価格攻勢を強めるなかで、どのように差別化していくか、対応が求められる状況となっている。

景況感調査

現状判断

景気判断DI
当月：44.0 (-1.0)
前月：45.0

消費者購買意欲DI
当月：42.8 (-1.7)
前月：44.5

周辺地域 競合状況DI
当月：40.9 (-0.2)
前月：41.1

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：44.1 (-1.1)
前月：45.2

見通し判断

景気判断DI
当月：41.7 (-1.5)
前月：43.2

消費者購買意欲DI
当月：42.0 (-1.7)
前月：43.7

周辺地域 競合状況DI
当月：39.9 (-0.3)
前月：40.2

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：43.6 (-1.0)
前月：44.6

経営動向調査 経営状況

売上高DI
当月：-6.5 (+1.5)
前月：-8.0

客単価DI
当月：0.4 (+0.7)
前月：-0.3

来客数DI
当月：-9.6 (+1.0)
前月：-10.6

収益DI
当月：-4.0 (+5.1)
前月：-9.1

販売価格DI
当月：4.6 (±0.1)
前月：4.5

生鮮品仕入原価DI
当月：3.4 (+0.9)
前月：2.5

食品仕入原価DI
当月：4.9 (-1.4)
前月：6.3

カテゴリ動向

青果DI
当月：-1.9 (+2.7)
前月：-4.6

水産DI
当月：0.9 (+4.9)
前月：-4.0

畜産DI
当月：-7.2 (+4.5)
前月：-11.7

惣菜DI
当月：4.0 (-0.7)
前月：4.7

日配DI
当月：-3.3 (+2.8)
前月：-6.1

一般食品DI
当月：-7.9 (-0.2)
前月：-7.7

非食品DI
当月：-8.7 (-0.6)
前月：-8.1

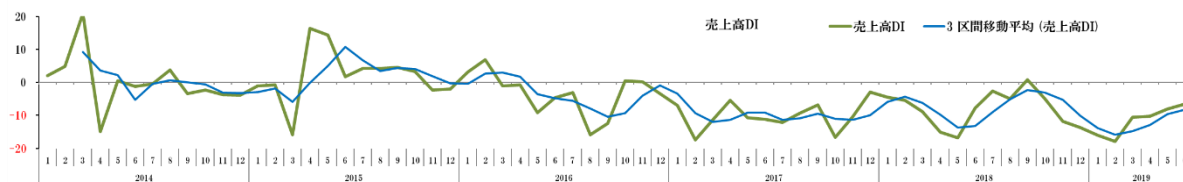
○ 内は前月DIとの増減、赤字はマイナス

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高DI

徐々にマイナス幅を縮小

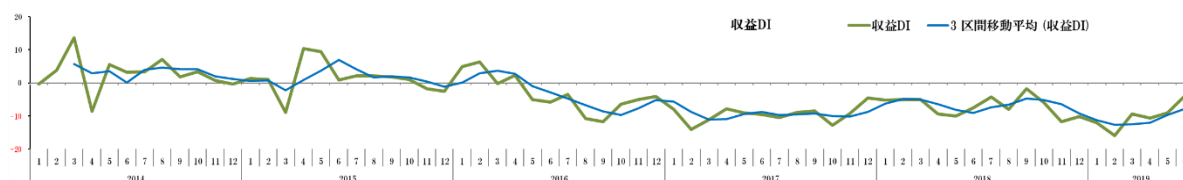
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	11.1	34.7	30.0	23.7	0.5	-8.0
売上高 (当月)	9.4	34.1	31.2	23.5	1.8	-6.5



2. 収益DI

マイナス幅をやや縮小

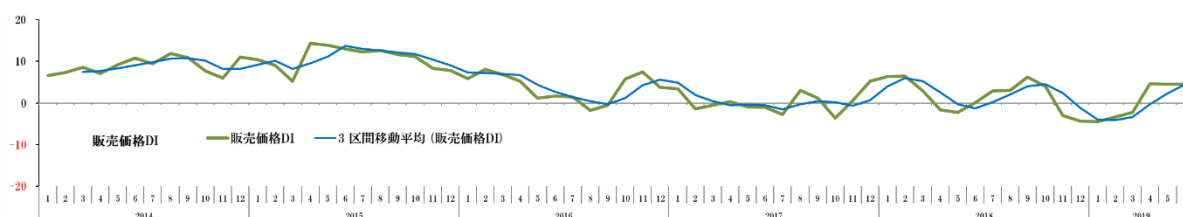
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	11.2	38.0	28.9	19.8	2.1	-9.1
収益 (当月)	7.1	32.1	36.3	18.5	6.0	-4.0



3. 販売価格DI

前月から同水準を維持し、プラス圏での推移

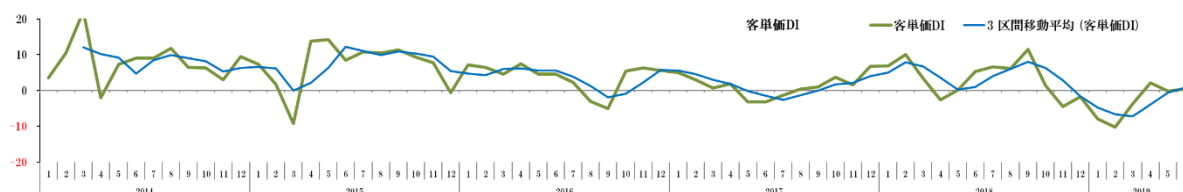
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.0	11.0	60.2	28.8	0.0	4.5
販売価格 (当月)	0.0	10.6	61.2	27.6	0.6	4.6



4. 客単価DI

前年同月水準で横ばい推移

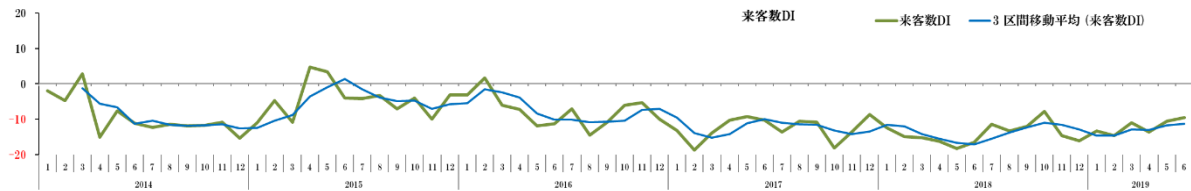
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	1.0	26.7	45.5	25.7	1.0	-0.3
客単価 (当月)	1.8	25.4	42.0	30.8	0.0	0.4



5. 来客数 DI

小幅上昇するも、マイナス圏で低迷つづく

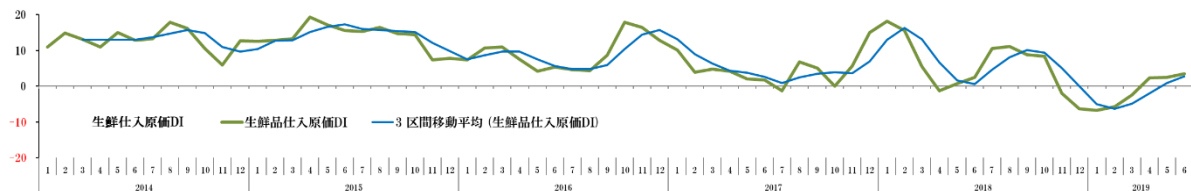
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	9.9	43.5	26.7	18.8	1.0	-10.6
来客数 (当月)	9.4	39.4	32.9	16.5	1.8	-9.6



6. 生鮮仕入原価 DI

小幅に上昇し、3か月連続でプラス圏

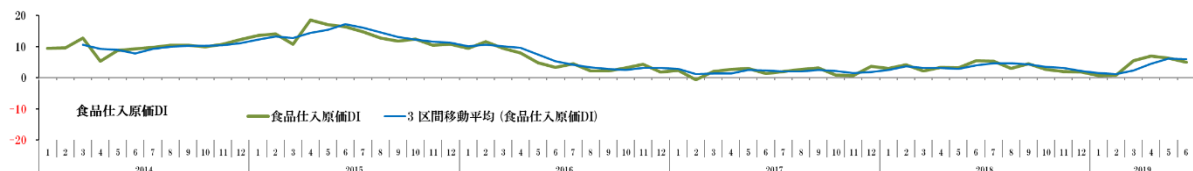
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	2.1	12.3	61.0	22.5	2.1	2.5
生鮮仕入原価 (当月)	0.6	12.6	59.9	26.3	0.6	3.4



7. 食品仕入原価 DI

プラス圏での推移

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	2.1	9.6	51.6	34.6	2.1	6.3
食品仕入原価 (当月)	1.2	13.7	50.0	34.5	0.6	4.9

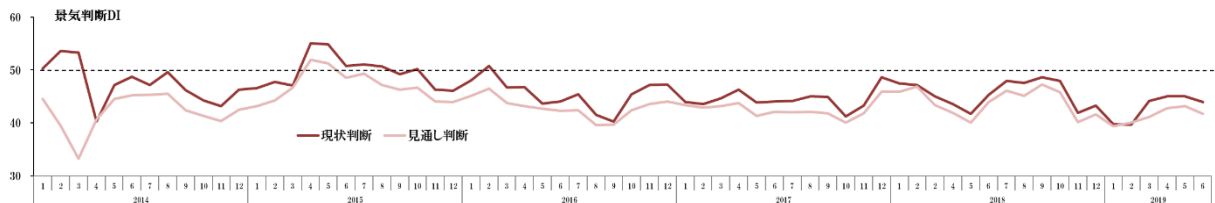


II. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景気判断 2010年4月～)

1. 中核店舗景気判断 DI

現状、見通しとも小幅に悪化

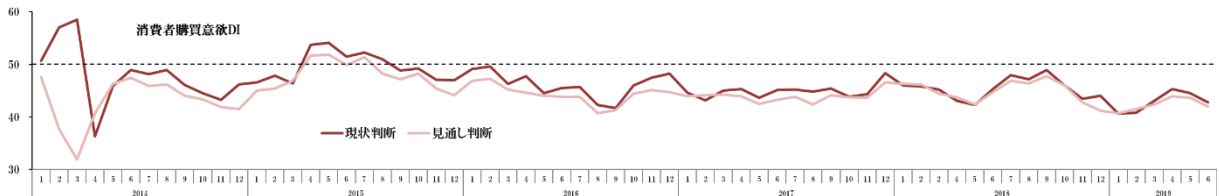
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断 (前月)	4.2	24.7	58.4	12.1	0.5	45.0
【現状】景気判断 (当月)	3.5	27.1	59.4	10.0	0.0	44.0
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断 (前月)	5.9	25.0	60.1	8.5	0.5	43.2
【見通し】景気判断 (当月)	4.7	31.4	56.2	7.7	0.0	41.7



2. 消費者購買意欲 DI

現状、見通しとも小幅に悪化

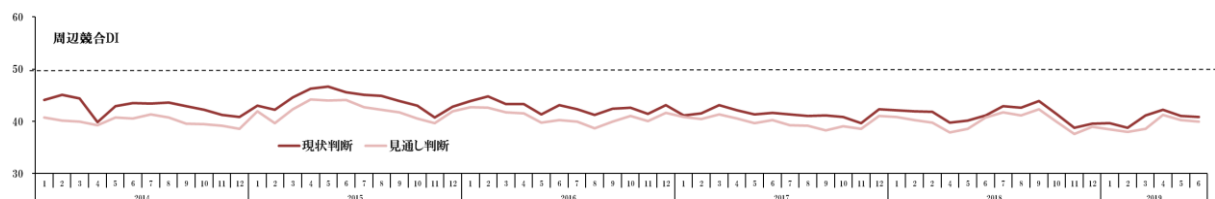
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	3.1	24.1	64.4	8.4	0.0	44.5
【現状】購買意欲 (当月)	2.9	30.0	60.0	7.1	0.0	42.8
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	2.6	25.4	66.7	5.3	0.0	43.7
【見通し】購買意欲 (当月)	3.6	31.4	58.6	6.5	0.0	42.0



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状、見通しとも小幅に悪化

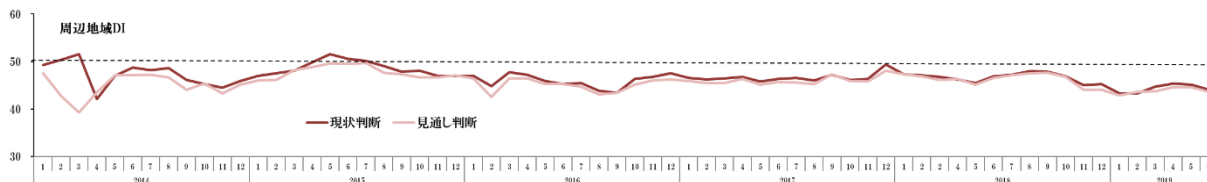
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	7.4	25.3	63.2	4.2	0.0	41.1
【現状】競合状況 (当月)	6.5	27.6	61.8	4.1	0.0	40.9
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	7.9	25.9	63.5	2.6	0.0	40.2
【見通し】競合状況 (当月)	6.5	30.2	60.4	3.0	0.0	39.9



4. 中核店舗周辺地域景気判断 DI

現状、見通しとも小幅に悪化

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	0.5	22.5	72.8	4.2	0.0	45.2
【現状】地域景気 (当月)	1.2	22.4	75.3	1.2	0.0	44.1
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	0.5	24.3	71.4	3.7	0.0	44.6
【見通し】地域景気 (当月)	1.2	24.9	72.2	1.8	0.0	43.6



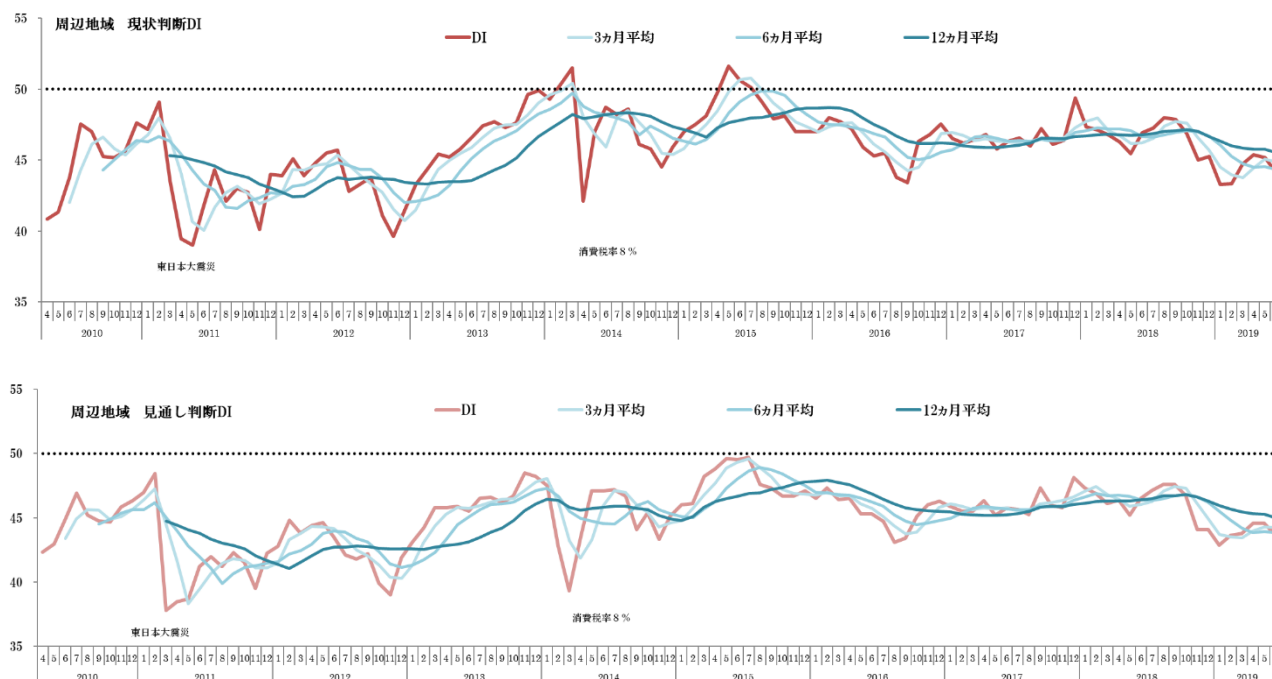
※長期傾向 (2010年4月～)

11年3月の東日本大震災後低迷を続けていたDIは、12年11月から16ヵ月にわたり改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。

14年4月の消費税率引き上げにより大きく悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には調査開始以来の最高値を更新し、現状判断DIは51.6にまで達した。

しかしこれをピークとし、その後15ヵ月にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以降やや改善傾向が続いていたが、18年に入り悪化が続き、5月には移動線付近を下回る水準まで低下した。その後6月以降は持ち直し改善傾向が続いた。

10月から再び悪化幅を広げ、11月にはすべての移動平均線がマイナス方向に転換し、以降弱含みの推移が続いた。3月以降は小幅ながらやや持ち直しの動きを続けたが、7月にやや弱含みとなっている。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：-1.9（やや不調）

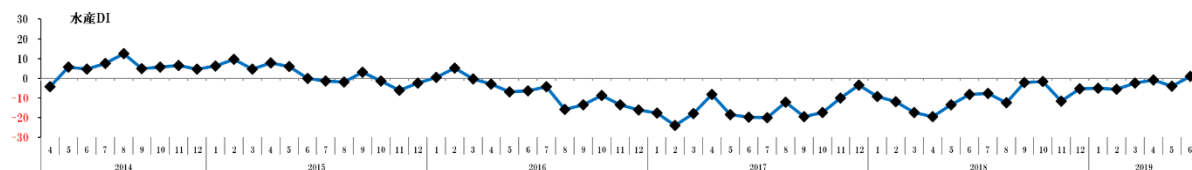
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果 (前月)	9.9	32.6	26.5	27.6	3.3	-4.6
青果 (当月)	7.5	29.8	29.8	28.6	4.3	-1.9



相場は前年並みに戻りつつあり、全体的には青果カテゴリー持ち直し傾向が続いている。前年より気温が低かった地域では、トマトなどのサラダ類の動きが悪かった。春物の豆類（グリーンピース・スナップエンドウ）や菌類の動きが引き続きよかった。果物類では、キウイフルーツを中心に輸入フルーツは好調となっているが、不作のさくらんぼや出荷の遅れている桃が不調となった。スイカやメロンは気温により好不調がわかれた。アボカドは前年好調の反動がみられた。

2. 水産DI：0.9（やや好調）

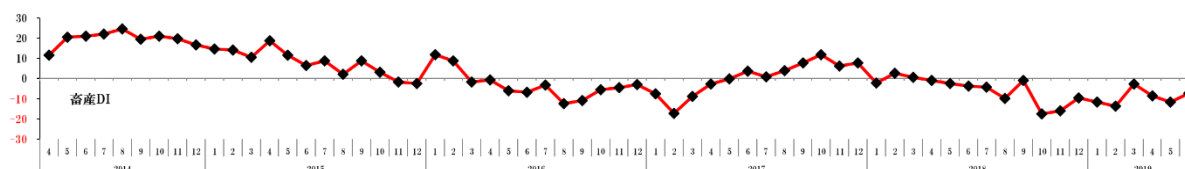
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産 (前月)	8.3	32.2	29.4	27.2	2.8	-4.0
水産 (当月)	5.6	24.7	37.7	24.7	7.4	0.9



日曜日が一日多い曜日巡りに加え、前年に比べ水揚げがやや回復している魚種もみられ、カテゴリーではやや好調となった。好調となった店舗では、まぐろを中心に刺身類の動きがよく、旬魚であるアジやイワシも好調となった。かつおは価格高騰による不振とアニサキス報道の影響緩和による好調のコメントにわかれている。メディアによる健康報道のあった、めかぶなどの海藻類は引き続き好調となっている。鰻は高値が続いているが、販促により好不調がわかれている。

3. 畜産DI：-7.2（不調）

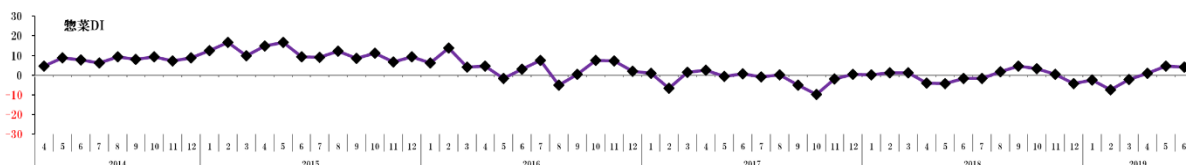
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産 (前月)	11.0	44.2	26.0	18.2	0.6	-11.7
畜産 (当月)	11.0	33.7	31.3	20.9	3.1	-7.2



牛肉は前年に比べ気温が低めに推移した地域を中心にステーキ・焼肉用の動きが悪いほか、父の日を除き、和牛などの動きも悪く不調となった。豚肉は豚コレラの影響を受け国産の相場がやや高騰しているほか、前年との気温差により冷しゃぶ用や生姜焼き用が伸びず、不調となった店舗が多い。鶏肉は相場安で、販促を強化して好調となった店舗が多い。ハムを中心に加工肉は好調となった。

4. 惣菜DI：4.0（やや好調）

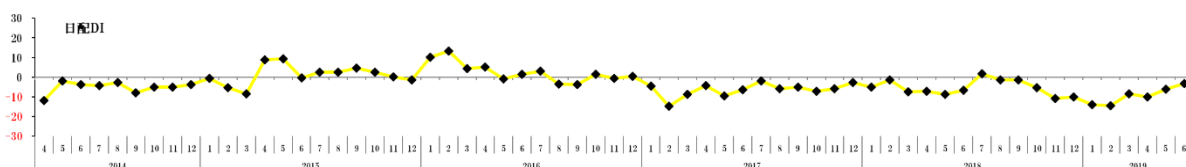
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	5.1	15.8	41.2	31.1	6.8	4.7
惣菜（当月）	3.1	21.1	41.6	24.8	9.3	4.0



父の日には、ごちそうメニューや寿司類が好調となった。天ぷらや揚げ物が好調な一方で、弁当類は動きが悪かった。新メニューや出来立て提供の取り組みが成果をあげる一方で、人手不足により十分対応できないことへの不安もみられた。夕方に雨が多かった地域では、ロス管理に苦心したとのコメントがみられた。

5. 日配DI：-3.3（やや不調）

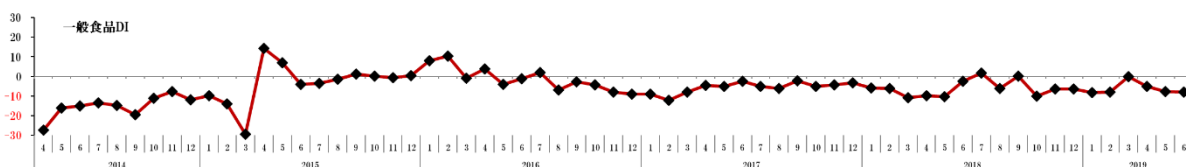
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	9.4	31.1	35.6	22.2	1.7	-6.1
日配（当月）	7.5	29.8	33.5	26.7	2.5	-3.3



前年より気温が低い地域では、アイスや飲料など涼味系商品、麺類などの動きが悪かった。漬物、こんにゃく、ところてんなどは、気温差により好不調がわかれている。一方で価格改定のあった乳製品やパン類などの洋日配カテゴリーは売上増となった店舗が多かった一方で、価格競争により不振とする店舗もみられた。カニカマなど健康報道関連の強化やオリジナル商品の投入など、競合との差別化に取り組んでいる店舗もみられた。

6. 一般食品：-7.9（やや不調）

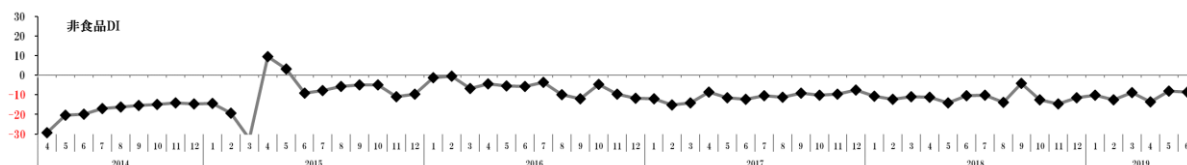
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	9.3	35.2	34.1	19.8	1.6	-7.7
一般食品（当月）	8.5	35.4	37.8	15.9	2.4	-7.9



最終週の気温低下の影響や、地域による前年との気温差の違いにより、そうめん関連などの涼味商材、飲料類や酒類は好不調まちまちとなった。米類は価格訴求が激しくなっており、不調となった店舗が多かった。乾麺には値上げの影響や駆け込み需要の反動減が大きかった。水産缶詰類は引き続き好調とする店舗が多い。梅酒関連商材は動きが悪かった。ドラッグストアとの価格競争を指摘するコメントがみられた。

7. 非食品 DI：-8.7（やや不調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	10.2	31.1	42.4	13.6	2.8	-8.1
非食品（当月）	13.3	29.1	39.2	15.8	2.5	-8.7



品薄状態となっている紙類が不振となった店舗が多い。夏物商材の殺虫剤や熱中症対策商品も動きが悪かった。電子タバコの売上が堅調とのコメントがみられた。ホームセンターやドラッグストアなどの競合が厳しく低迷が続いている。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調：～ 20 好調：20 ～ 10 やや好調：10 ～ 0
 やや不調：0 ～ -10 不調：-10 ～ -20 かなり不調：-20～

2019年7月調査（6月実績）キーワード TOP3

1. 日曜日が一日多い
2. 平年より高い気温も前年より低い、梅雨時期の遅れ
3. 消費意欲減退

（参考）2018年7月調査（6月実績）キーワード TOP3

1. 土曜日が1日多い
2. 天候要因（気温上昇、例年より早い梅雨明け）
3. 来客数減

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

6月実績速報版 170社
 5月実績確報版 191社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp